

## 製品仕様書

# TSD-SPSD420SEP

### 東進電機工業株式会社

〒389-0505 長野県東御市和 1106-4

TEL 0268-75-7708 FAX 0268-75-8226

承認	確認	作成
		

## 1.対象

録画機能搭載防滴型ソーラー充電式赤外線暗視カメラ「TSD-SPSD420SEP」

## 2.概要

本製品は、ソーラー充電式の microSD カードレコーダー一体型監視用カメラです。

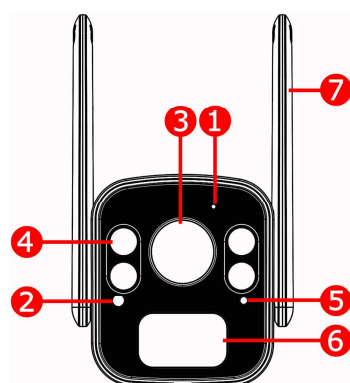
## 3.特徴

- ・ソーラー蓄電で動く完全電源不要の microSD カード録画カメラ
- ・ソーラーパネルがセパレートタイプなので、カメラ本体は軒下や室内への設置も可能
- ・スマートフォンとダイレクト接続が可能
- ・人体の動きを感知して録画を開始
- ・インターネット環境があれば、Wi-Fi 接続での遠隔監視も可能
- ・防水仕様 IP66 相当なので、雨が降り掛かる屋外への設置が可能
- ・音声マイク内蔵で、録画データに音声の同時記録が可能

## 4.製品構成

品名	内容	数量
カメラ本体	TSD-SPSD420SEP	1
ソーラーパネル	120(W)×180(H)mm ケーブル長約 3m	1
ブラケット	カメラ本体、ソーラーパネル取付用ブラケット	2
取付ネジ	タッピングネジ/プラスチックアンカー	各 6
USB ケーブル	充電用 USB ケーブル	1
防犯ステッカー	「防犯カメラ作動中」 55(W)×215(H)mm	1

## 5.各部の名称



前面



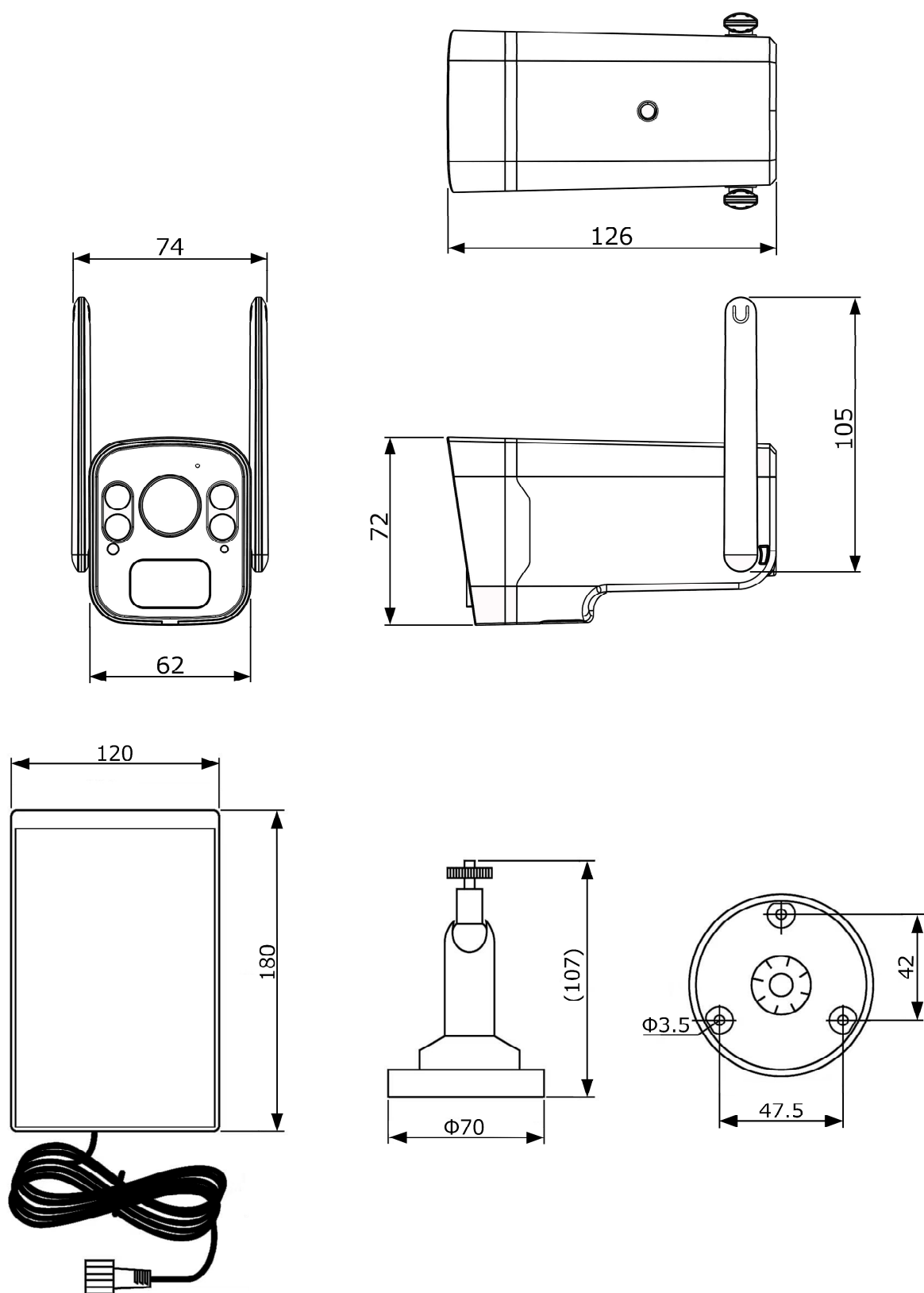
底面

①	音声マイク	⑧	音声スピーカー
②	明るさセンサー	⑨	電源スイッチ(ON/OFF)
③	レンズ	⑩	リセットボタン(リセット音あり)
④	赤外線 LED/白色 LED	⑪	充電用 microUSB 端子(DC5V2A)
⑤	Wi-Fi 状態表示 LED	⑫	microSD カードスロット
⑥	人体感知センサー	⑬	防水カバー
⑦	アンテナ		

## 6.製品仕様

イメージセンサー	1/3 インチ 4M CMOS
レンズ	2.8mm
視野角	水平約 84°/垂直約 50°
被写体最低照度	0.01Lux ※白黒撮影
赤外線照射距離	最大約 15m LED4pcs
防水性能	IP66
PIR 検知距離	最大約 8m
PIR 検知角度	約 120°
PIR 反応速度	0.6 秒
録画解像度	2560×1440
映像圧縮方式	H.265
録画フレームレート	最大 30fps
録画モード	人体検知(10 秒 or30 秒)/連続/手動
記録媒体	microSD カード(最大 256GB/class10 以上) ※別売
動作時間	1 ヶ月合計約 160 時間の日照時間で連続動作が可能 (1 日 8 時間×20 日間程度)
時計精度	月差±1 分以内(NTP 対応)
通信規格	IEEE 802.11b / g / n
周波数帯	2.4GHz
セキュリティ	64/128-bit WE P /WPA/WPA2/WPA-PSK/WPA2-PSK
同時アクセス数	最大 3(ダイレクト接続:1)
電源	太陽光蓄電(リチウムイオン 9600mAh)/DC5V2A
重量	カメラ本体約 334g/ソーラーパネル約 192g
使用動作温度範囲	-10～60℃

## 7.寸法図



単位:mm

※本仕様書の内容、製品の外観などは予告なく変更されることがあります。

## ■ 注意事項 ■

- ・ このカメラは、ソーラーパネルからバッテリーへ蓄電して動作する製品です。  
天候が悪い日が続くと充電ができずに動作が停止する場合があります。
- ・ 初回ご使用時は、電源スイッチ OFF の状態で、充電端子から 15 時間の充電をしてください。  
充電には、スマートフォンなどの充電器をご使用ください。(DC5V2A 以上)
- ・ 動作時間の目安は、満充電時の動体検知録画で約 5 日～10 日間です。(1 日の検知数 70 以下を目安)  
1 日の検知数が 70 以下の場合、天候が悪くても 10 日間は動作することになりますので、10 日間の間に天候が良い日があれば充電ができ、連続した動作が可能になります。
- ・ 連続録画での動作の場合、バッテリーを消耗する時間が充電時間よりも早いため、充電が追いつかなくなり、連続した動作ができなくなります。  
また、動体検知録画であっても、頻繁に検知する場合は、連続録画と近い状態になり、連続した動作ができません。
- ・ バッテリーの充電が無くなり電源が落ちた場合でも、天候が良ければ 1 時間以内に充電を開始して起動しますが、連続録画と頻繁な動体検知録画では、充電が追いつかずに動作ができません。
- ・ ソーラーカメラは、動作していない状態では、スリープモードになります。  
スリープモード状態であれば、消費電力は少なくて済みますが、連続録画や頻繁な検知録画状態では、消費電力が増加してバッテリーの容量が一気に減ってしまい、起動しない原因になります。  
バッテリーの充電には、スリープモードの状態が一定時間必要です。  
バッテリーの充電が無い場合でも、ソーラーパネルから電源を供給していると思われるかもしれませんが、ソーラーパネルで発電される電気の供給量では、カメラを起動させるのに必要な電力には足りません。
- ・ バッテリーの充電容量が低下すると、アプリの画面上に充電を指示するメッセージが表示されます。  
メッセージが表示された時点で、天候が悪い場合は、充電端子を使用して強制的に充電をする必要があります。  
アプリのライブ画面上のバッテリーマークの色が緑から赤に変わった場合も同様です。  
翌日の天候が良いと予想される場合は、2～3 時間程度の充電で問題ありません。(最大 18 時間)